

月例研究会講演要旨

技術士に期待される「総論」から「各論」への合理的な展開
ーヒートシール技法を事例にして、その展開法を習得するー

菱沼技術士事務所
所長 菱沼 一夫

日時	平成 28 年年 9 月 29 日 (木) ----- 18:00~20:00
場所	日本技術士会会議室
	荳手第二ビル 5 階 ((フキデダイニビル) 東京: 田中山ビルの隣)
演題	技術士に期待される「総論」から「各論」への合理的な展開 ーヒートシール技法を事例にして、その展開法を習得するー
講師	菱沼技術士事務所 所長
	技術士 (経営工学)、博士 菱沼 一夫 氏

内容

「技術士法」第一条には ～もって科学技術の向上と国民経済の発展に資すること～、第二条には ～科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいう～ とされている。

具体的には「総論」として、コンサルティング対象の①理論、論理を熟知、②現状の技術分野の水準の適格な評価、③市場の動向とニーズの把握、④クライアントの期待成果の達成 の基本展開が求められる。最終的には「各論」として、適格な技術を展開して、依頼企業の経済効果に集中せず、国民目線の改善を実行することにある。

演者は計測・制御工学専攻の科学/技術者として、包装操作における基幹技法のプラスチックの熱接着(ヒートシール)の長年の不具合の鬱積を約 20 年間、「技術士」の立場で研究/改善に勤しんできた。この研究の集約として、段差がある接着面の「密封」と「易開封」を同時に達成できる革新的な新ヒートシール技法の“一条シール”(登録商標)(日本特許取得、PCT 出願の公開済み)

の開発に結び付けた。

この完成には、従来の課題群を徹底解析して、『誤認』,「間違い」,“誤魔化し”に分類した。そして、技術士の務めとしての最終的な統一的改善策を生み出したところにある。(詳細を個別に講演する)

『誤認』,「間違い」,“誤魔化し”に分類した問題解析は、ヒートシールに限定したものではなく、技術士のテーマ対処に大いに利用できる特長を有している。各位の活用を期待する。

以上：